



例会の貴重なお時間を頂戴しまして、私の自己紹介をさせていただきます。

私は 1976 年 5 月 31 日生まれ、宍粟市山崎町で生まれ、小、中学校まで地元で過ごし、高校からは姫路の東洋大附属姫路高校へ通学し、高校卒業後は四国にある徳島文理大学へ進学しました。

大学4年の夏頃、父親が体調を崩したことで、これまでの自身の人生を考える機会となりました。夏季休暇に帰省し、父親と色々な話をしましたが、戦中生まれの父は「大丈夫。自分の好きな様にすれば良い」と言ってはおりました。姉・兄とは年も離れていたこともあり、これまで自由に過ごしていた自分に出来ることは、家業を継ぐことではないかと思い、兄と話し合うこととしました。

私には6歳上の姉、5歳上の兄がおりまして、中学校になる頃には兄・姉とも進学・就職で家を出ておりましたので、両親について話をするのは初めてでした。当時の兄は法律関係の仕事に就く為に勉強していたこともあり、実家に戻ることは出来ないと言うことでした。自分が次男と言うことで、両親のこと、家業のことを考えたことは無く、就職も勝手に決めていたのですが、これまでの自身を振り返り、宍粟に戻ることを決めました。

とは言え、家業のことを何も知らずに自由に過ごしておりましたので、まずは火薬の勉強の為に取引先の紹介で火薬のメーカーへ就職することになりました。就職先は一部上場企業でありましたので、私の様な何も知らない者が飛び込むには非常に厳しいのでは無いかと思っておりましたが、入社して新入社員研修や工場での生産業務、品質管理、研究所での取り組みは大きな学びがあり、それは現在の業務にも生かされております。

研修後は東京へ転勤となり、トンネルの発破設計や騒音・振動などの影響を調査する技術業務を担当し、実家のことも忘れるくらい楽しく仕事をさせていただきました。

当初は2年程度の契約だったのですが、気がつくと3年目を迎え、4年目に入ろうとした頃に、父親の体調が悪化したことで退職し、宍粟に戻ってきました。

家業を継ぎ、改めて事業を見た時、それまで務めていた企業の事業背景、事業規模を実感し、同時に家業のことを全く分かっていなかったことを実感しました。まず困ったのは、自社の事業は、火薬類の販売、銃砲の販売、煙火打上請負ということで、火薬に関する知識はあっても銃砲について全く知らないと言うことでした。例えば、狩猟の為に弾を購入する為にご来店いただいたお客様に対して、弾のことを全く知らないので、ご注文を受けても何を出して良いかが分かりません。

これは非常に問題であると言うことで、取引先に相談し、今度は銃の修理専門店で修行する為に再び東京へ行くこととしました。そこでは、日本国内の銃砲店から修理の銃が持ち込まれ、毎日何十丁という銃が届き、それを修理するという国内でも珍しい銃砲店で、無理矢理お願いして修行させていただいたので、当初は何も知らない私に呆れられましたが、日を追うごとに銃のことから修理のこと、銃砲業界のこと、人としてのあり方、物事に対する姿勢など、本当に色々な事を教えていただきました。まだまだ覚えることはあったのですが、一定のところまで技術を習得したということで、宍粟に戻ることにしました。

ようやく家業を継ぐこととなったのですが、戻ると同時に父の勧めで商工会青年部、消防団に入

会することとなりました。8年振りに地元に戻ってきましたが、中学校までの友人は市外・県外に出ており、親しい関係の友人はいませんでした。親戚が商工会青年部にいたことで、少しずつ知り合いが増え、地域活性化の為に商工会青年部活動に取り組む様になりました。

兵庫県に戻って4年が過ぎた30歳の頃、地元商工会青年部で人間関係に悩む様になりました。ある事業の懇親会の後、三渡会員のご長男と何気ない立ち話をしておりまして、側にあったベンチ座ろうとお願いして、気がつくと2時間ほど話を聞いていただきました。三渡会員のご長男は、私の兄と同級生であり、その当時は姫路青年会議所にも入会されておりまして、青年部入会直後から色々な事業で活躍されておりました。

当時の商工会青年部では、青年会議所に対して活動の方針や内容に対して批判的な意見が多く、私も何も知らない中で勝手に青年会議所に対して悪い印象を持っていましたが、幼少期から知っている三渡会員のご長男に親身になって話を聞いていただき、色々な意見を言うことで青年会議所のことについて話されていたことで、青年会議所に興味を持つ様になりました。

ご縁というのは不思議なもので、興味を持った途端に、親戚である藤村会員の次男から入会の勧誘を受けました。青年会議所では、県内各地の多くの方と過ごすことで、様々な影響を受ける機会を得ることが出来ました。商工会青年部では38歳の時に全国大会実行委員会に出向し、39歳から2年間、部長、兵庫県青連副会長として神戸で商工会青年部全国大会を開催する機会を得ました。40歳の時には、青年会議所の理事長として、学びの多い時間を過ごすことが出来ました。

当時は考える間もない程、充実した日々を過ごしておりましたが、41歳になり青年会議所を卒業し、地元のことについてゆっくり考えた時、人口減少、少子高齢化などの問題に取り組む時間が増える様になりました。全国的にも地方創生という動きが活発であった頃で、青年部の役員ということもありましたことから、商工会から地方創生に取り組む事を紹介されました。事業を通して、これまで会う機会が無かった市内の方々と話をし、山間部での新たな産業の事業化に取り組みました。残念ながら事業は中止となりましたが、その時知り合った人たちとは今も交流が続いており、人と人との繋がり大切さを学ぶ機会だと思いました。

そして本年、19年在籍しておりました商工会青年部を卒業したと同時に、藤村会員から龍野ロータリークラブの入会を勧められましたが、ようやく一区切りしたという想いがあり、50歳になればという話をしましたところ、以前に青年部を卒業したら考えると言っていたことと、何よりも面談で本條会長の熱い想いに打たれまして、入会させていただくこととなりました。

これから新たな学びの場として研鑽を積んでいきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻を賜ります様、お願い申し上げます。